



# くれ

922号  
2022年1月1日  
郵政産業労働者ユニオン  
呉支部発行



←中国地本HPへ  
PC・スマホ等から  
この情報が閲覧可！



メールはこちら→

# 謹賀新年

呉支部長あいさつ

明けまして

おめでとう

ございます

喜ばしい年明けも新型コロナウイルス禍で、2年前から状況は異なりました。ワクチンや自粛により、日本の感染者数は比較的落ち着いていますが、第6波も懸念されています。社会活動や経済活動、様々な場面での不自由さがあります。職場でも大きな変化が起こっています。社員のコロナ感染で職場が閉鎖され、お客様にご迷惑とご心配もお掛けしました。

また、10月からの土曜休配はサービス低下だけでなく、業務負担を増加させました。

今後ではありますが、営業担当の社員を日本郵便からかんぽ生命に向する方針が示され、不安の声

も耳にします。それだけでなく、社員の労働条件悪化も懸念されています。

20条裁判で、最高裁判所から勝利判決を獲得しましたが、会社は正社員の待遇を低下させて平等に近づけるといふ改悪を行いました。

住居・扶養手当等です。断固として、許せません。更に、期間雇用社員の雇用上限制度、有給の病休、夏期・冬期休暇、祝日給においても、「見直し」と表現し、正社員待遇の低下を提示しています。

労使双方が納得できる待遇改善とは言えず、現在働いている社員だけでなく、将来、就職する社員のためにも、労働条件は守るべきものです。

郵政ユニオンは労働者の味方として、職場や労働条件改善を目指し、活動して参ります。

大変な時期ですが、これからの変わらぬご愛顧をお願いし、新年の挨拶とさせていただきます。

服部 浩

## 郵政グループの課題

### かんぽ生命

通常営業が行われているが、不適正営業の発覚以降、自粛ムードが続く、V字回復とは程遠い状況。

全国の営業拠点を7割削減する事からも、縮小路線に変更が伺える、

保険営業担当だった日本郵便の社員は、今後、かんぽ生命に向となる。

1万人以上の規模となる見込み。

日本郵便を介す事無く、指導や監督ができる為、不正防止を目的としているが、不正が発覚すればどうなるかは社員の方が分かっており、疑問の声も出ている。

民営化後も制約があり、保険金額や新商品の開発など超えなければならぬ壁がある。

コロナ禍で、ネット活用など対面以外の営業活動が必要となる。

### 日本郵便

人手不足や経費削減の為、土曜休配が行われた。

その結果、週明けの配達日は、配達物量が多く、厳しい状況となっている。

休配日の土曜日にも、書留や追跡郵便物次第で厳しい日もある。

営業面では変化もあつた。

長年、年賀状営業に関する時間外営業があると指摘されていた結果、昨年から目標自体を言われなくなった。

時間外労働だけでなく、料金の立替の問題も指摘されていたから当然だ。会社の行き過ぎた営業体質に問題があつたと認めるべきだろう。

今後、不適正があれば社員が責任を取る事になるが、これまでの問題がなかつたかの様な振る舞いは無責任さがある。

### ゆうちょ銀行

キャッシュレス時代に対応する為、通帳アプリ、ゆうちょPayなどサービスの多角化を行っている。

これまで無料だった両替などを有料に変更し、事務負担や手数料収入を考慮した経営方針が伺える。自社ローンや独自商品のラインナップは今後の課題である。

元々、インターネット関連は弱かったが、システム開発に力を入れても商品から分り、ネット社会に適応した銀行となりそう。

莫大な資金のメイン活用先が、国債や地方債、外国証券などであり、堅実ではあるが、資金活用面の脆弱さが指摘されている。



## 今後の予定

- 1月11日(火) 17:00~  
第3回呉支部執行委員会  
支部事務所
- 1月23日(火) 13:30~  
第10回中国地方委員会  
オフィスセンター

次号は 1月11日 予定